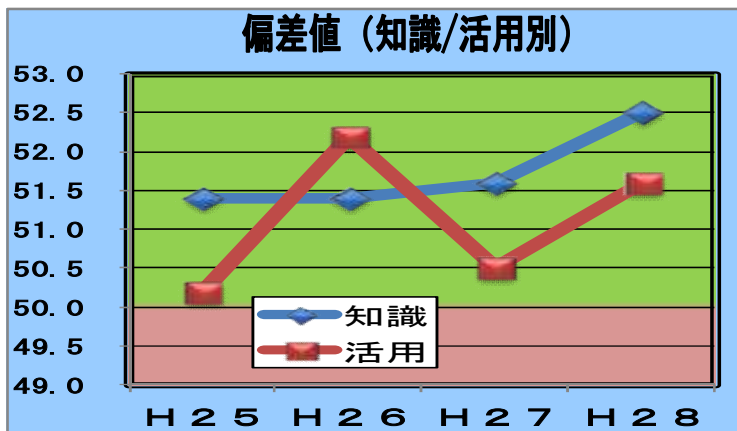


# 平成28年度 大分県学力定着状況調査結果（小学校：国語）

## 1 結果のポイント

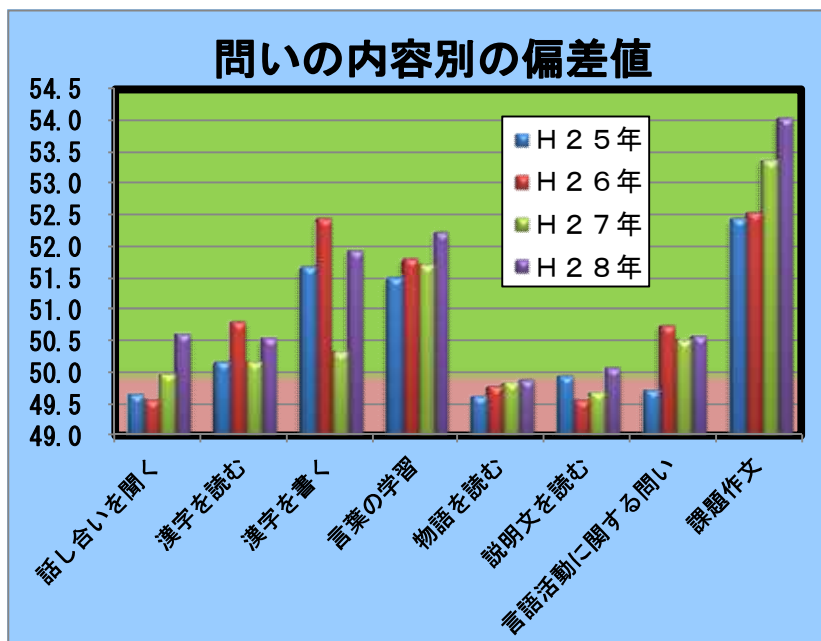
- 偏差値は、知識 52.5、活用 51.6 で、昨年度より、上昇した。（知識 0.9、活用 1.1）
- 目標値を超えた児童の割合は 70.7% で、昨年度より 1.0 ポイント上昇した。
- すべての領域で偏差値は 50 を、正答率は目標値を上回っている。
- 「話すこと・聞くこと」及び「読むこと」の領域において、偏差値 50 を上回るのは、本調査開始以来初めてのことであり、引き続き、重点的な指導が必要などである。
- 問いの内容別に見ると、話合いの内容を聞くこと、漢字、言葉の学習についての設問は、偏差値 50 を超え、全問で目標値を超えている。漢字や言葉の学習については、豊かな思考を下支えする基礎となることであり、引き続き丁寧な指導をお願いしたい。
- 物語を読んで答える問いについては、偏差値 50 を下回っている。ある程度の分量の文章を素早く理解する力の育成が求められる。
- 大問6の言語活動（ポスターの作成とそれに関する話合い）に関する設問については、偏差値 50 を上回った。言語活動を位置付けた実践が定着したと連動していると考えられる。
- 大問7のテーマや条件に沿った文章を書く設問については、偏差値 50 を大きく上回っている。指導の充実が感じられるところである。



### 領域別偏差値と達成率の推移

領域	偏差値の推移			
	H25	H26	H27	H28
話すこと 聞くこと	49.7	49.9	50.0	50.6
書くこと	52.5	52.6	53.4	53.8
読むこと	49.7	49.9	50.0	50.1
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	51.6	52.3	51.0	52.3

領域	達成率の推移			
	H25	H26	H27	H28
話すこと 聞くこと	49.3%	57.1%	45.1%	68.5%
書くこと	80.3%	80.0%	78.4%	69.4%
読むこと	58.0%	69.8%	62.2%	59.8%
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	73.0%	68.5%	70.0%	72.9%



## 2 課題が見られた問題と指導の改善事項

### (1) 読むこと

①登場人物の気持ちの変化について、叙述を基に読む。〈指導事項・読む—ウ〉

(正答率 72.7%・目標値 75.0%) 【知識】 (いとうみく「5年2組横山雷太、児童会長に立候補します!」より)

- 4 (2) 「オレさ～」と言うことによって、良介はどのようなことを伝えたかったのか。
- 1 自分の家のラーメンを食べに行きたいということ。……7.7%
  - 2 雷太の知名度を高める方法を探したいということ。……10.6%
  - 3 あいさつは人を気持ちよくするものだということ。……72.7%
  - 4 店と学校ではあいさつの仕方がちがうということ。……8.7%

- ・当該部分の後ろに「オレや優には良介が言わんとすることはちゃんとわかった。／あいさつってのは、人を気持ちよくするものなんだ。」とあるので、正答は「3」となる。
- ・「1」「4」を選んだ児童は、文章全体をよく理解せず(読まず)、該当部分の周囲にある言葉のみから判断していると考えられる。
- ・「2」を選んだ児童は、文章全体を読み、物語のあらすじは理解していると考えられる。しかし、問いに対する答えの根拠となる部分を探せていないため誤答を選んでいると考えられる。
- ・文章全体を素早く理解する力と、必要な部分を的確に判断し、詳細に読む力の両方が必要となる問いである。

②登場人物の気持ちの変化について、叙述を基に読む。〈指導事項・読む—ウ〉

(正答率 59.7%・目標値 60.0%) 【知識】

- 4 (3) 次の文は、文章中の【1】～【4】のうち、どこに入りますか。

そんなことをされたら、めいわくなだけじゃん。

※担任の先生から挨拶についてのアドバイスをもらい、挨拶について考えを深めている場面

- ・【1】を選択した児童は7.7%、【2】は23.1%、【3】は59.7%、【4】は8.4%である。「されたら」「めいわくなだけ」の行為とは何であるのかを問うている。また「そんな」は、前の部分を指し示す言葉であるという知識も前提にして解答する必要がある。
- ・当該部分に入れて読むと、それぞれ以下のように考えることができる。
  - 【1】…「歩き出して、ふと足を止める」行為
  - 【2】…「堂々と顔を上げ、相手を見る」行為、または「きびすを返す」行為
  - 【3】…「おはよう、おはようとがなりたてる」行為
  - 【4】…「お客さんに『いらっしやい』『またどうぞ』と言う」行為正答は【3】であることが分かる。
- ・【2】を選んだ理由は2つ考えられる。1つめは、注にもある「きびすを返す」という語の意味をよく理解していなかったためということである。これは明らかに誤読である。2つめは、「堂々と顔を上げ、相手を見る」行為を否定的に捉えてしまったためということである。「顔を上げ、相手を見る」行為は、児童の生活の場面では、相手を威嚇する行為として捉えられることもある。しかし、【2】の後ろで「オレ」は、「顔を上げろ……。相手を見る……。」とこの行為の意味を考えていることから、「オレ」自身は否定的な意味として捉えていないと分かる。
- ・4 (2)と同様、文章全体を素早く理解する力と、必要な部分を詳細に読む力の両方が必要となる問いである。
- ・学習指導要領の言語活動例「ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。」「エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。」等を通して、登場人物の関係を示したり、人物の心情の変化を説明したりする学習をすることで、付けたい力である。

③中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考えて文章を読む。＜指導事項・読む一イ＞  
 (正答率 64.3%・目標値 65.0%) 【知識】 (澤口たまみ「なぜ?どうして?身近なごもん 5年生」より)

**5** (1) 鳥の中には、フクロウやヨタカ、ゴイサキなど～こうした鳥の目のとくちょうはなんですか。

1	もうまくに、色を感じる点が多いこと。……………	11.0%
2	もうまくに、明るさを感じる点が多いこと。……………	64.3%
3	水晶体が、光をたくさん通せること。……………	21.9%
4	水晶体が、ほかの動物よりもぶあついこと。……………	2.3%

- ・夜でもよく見える目の特徴を「もうまく」「水晶体」のいずれかの働きを通し、捉える問いである。
- ・㊦段落で、「もうまく」を「色や明るさを感じるまく」と説明しているので、「1」「2」のいずれかに絞られる。また、㊦段落で、「夜でもよく見える鳥の目は、明るさを感じる点が多い」と説明しているため、答えは「2」となる。
- ・文章全体から、必要な部分(中心となる語や文)を素早く見付ける力が求められる。

④段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読む。＜指導事項・読む一イ・カ＞  
 (正答率 62.1%・目標値 65.0%) 【知識】

**5** (3) 上の文章の段落のはたらきについて、次のようにまとめました。

□で目のしくみについて具体的に説明し、それに続く段落で、夜に活動する鳥と昼に活動する鳥の目のちがいを説明している。

1	1段落と2段落……………	8.0%	2	2段落と3段落……………	10.3%
3	3段落と4段落……………	62.1%	4	4段落と5段落……………	18.6%

- ・㊦段落で夜でもよく見える鳥の目、㊦段落で昼でもよく見える鳥の目や人間の目について説明している。その直前の段落にあたる「3」が正答となる。
- ・それぞれの段落の中心となっている話題(トピック)は何かを捉え、自分の言葉で説明させること(要約をする、要旨を捉える)を普通の授業で行う必要がある。
- ・説明的文章の段落相互の関係をとらえたり、まとまった分量の文章について話題をとらえたりする力が必要となる。言語活動例「イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること」等を参考にした言語活動を通して、付けたい力である。

⑤目的に応じて、文章の要点等に注意しながら読み、引用・要約する。＜指導事項・読む一エ＞  
 (正答率 59.7%・目標値 50.0%) 【活用】

**6** (2) 上の【話し合い】のあと、小山さんは、【ポスター】次のようなことがらを書き加えました。  
 【話し合い】の内ようをもとに考えて□□にあてはまる文を書きましょう。

《参加をまよっている人へ》

- ・ルールは、クラブの人がやさしく教えてくれます。

- ・参加を不安に思っている人へのメッセージとして、どのような言葉がより適切であるかを【話し合い】の中から探す力を試す問いである。

- ・谷田さんの言葉を使ってまとめるのか、小山さんの言葉を使ってまとめるのかを適切に判断しなければならない。

【谷田さん】…将棋は難しくはない

【小山さん】…将棋はすぐに覚えられる、親しみやすい

谷田さんと小山さんの発言の意図は同じであるが、小山さんが谷田さんの言葉を受けて、言い換えているということ、「難しくない」を「すぐに覚えられる」とより具体的に言い換えていること、の2点からよりメッセージ性が高いのは小山さんの言葉であると判断できる。

## (2) 書くこと

- ①書こうとすることの中心を明確にして書くこと。〈指導事項・書く一イ・ウ〉  
(正答率 57.5%・目標値 50.0%) 【知識】

### 7 《メモを基に、図書係からのお知らせを伝える新聞記事を作成する》設問

〈注意する点〉

- ②一つ目の段落には、【メモ】をもとにお知らせの内よりの説明と、図書係がお知らせをする理由を書きましょう。

【メモ】

○図書係からのお知らせ

学級文庫の本を借りている人は全て返して欲しい

・返す日…○月○日

・返し方…□□□□□□□□□□

・理由…△△△△△△△△△△

- ・メモにある情報を過不足なく、記述する力を試す設問である。「お知らせの内より」とはメモのどこを指すのか、「お知らせをする理由」はどこを指すのかを確認し、文章化する必要がある。
- ・課題や条件に沿った文章を書かせる際の指導として、「全体としてよく書けているから○です。」とするのではなく、条件（文体、字数、必要な情報等）に沿って書けているかを丁寧に見て、過不足等があればどこをどのように修正すべきであるのかを理解させた上で加筆修正させるという指導を行う必要がある。そうすることで推敲する力が向上すると考える。

## (3) 国語の特質に関する事項について

- ①文の構成（連用修飾語）について理解する。(正答率 46.3%・目標値 45.0%) 【知識】

### 3 (2) 「音楽室で」はどの言葉を…。「音楽室で、合唱クラブの児童が歌を歌います。」

- 1 合唱クラブの……26.1%
- 2 児童が……17.5%
- 3 歌を……9.8%
- 4 歌います……46.3%

- ・昨年度も連用修飾語の問いについては芳しくなかった。昨年度から正答率は20ポイントほど上昇しているものの、一層の指導の改善が望まれる。
- ・連用修飾語は、連体修飾語に比べ、修飾・被修飾の関係が捉えにくいと考えられる。理解が進みにくい児童に対しては、文を構成する文節数があまり多くない文を例文にして、修飾・被修飾の関係を感覚的に理解させるような指導も必要である。
- ・国語の特質に関する事項については、言語活動を行う中で指導する他、取り立てて指導することも有効である。
- ・漢字や文法については、日常的に学習することで定着度が上がる。学習の環境を学校全体（家庭学習も含む）で整えることが大切である。

### 3 指導の改善のポイント

#### (1) 更なる言語活動の充実

①国語科は、児童生徒に付けたい力を付けるために、言語活動を単元全体で取り扱い、言語活動を通して指導事項を指導する教科である。言語活動を設定した授業改善が進みつつあるが、今後も、更なる言語活動の充実を図り、不断の授業改善を推進していくという方針は不変。

※伝統的な言語文化や国語の特質に関する学習の際、取り立て指導を行うことは有効な手段である。しかし、基礎基本の積み上げだけでは活用する力は向上しない。

②小学校国語科においては、以下のような問題点が一部実践において見られる。

▼言語活動や教材が付けたい力にふさわしいものでないこと

▼指導事項・指導領域・評価の焦点化が進んでないこと

▼読むことの単元において、場面ごとの詳細な読解のみを行い、課題解決的な展開となっていないこと

その解決のための基礎作業として、教育課程編成時に、

①マトリクス型の年間指導計画を作成し教材と指導事項を確認すること

②学習指導要領の言語活動例の確認すること

の2点は、必ず行うべきものである（①は年度内に随時見直しを行うことも重要）。

③また、望ましい言語活動や付けたい力をイメージするために、国立教育政策研究所が作成した

・「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」

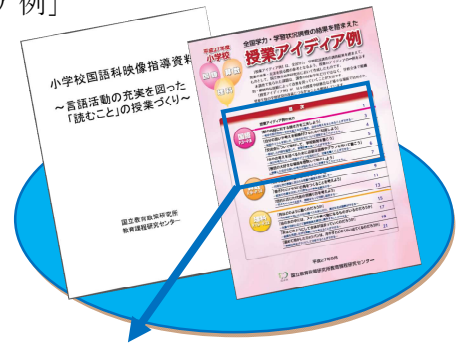
<http://www.nier.go.jp/jugyourei/>

・「小学校国語科映像指導資料～言語活動の充実を図った『読むこと』の授業づくり～」

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>

等をヒントにすることも必要である。

※本年度の調査において見られた課題の改善のためにH27年度版の以下のページをヒントに単元づくりをすることも有効な手立てと考えられる。



目次	
授業アイデア例の見方	1
「話の内容に対する聞き方を工夫しよう」 ～相手の話の目的や意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができる～	3
「自分の思いや考えを根拠付けるために引用しよう」 ～新聞のコラムを読んで、引用の仕方について理解することができる～	4
「交流会について取材して、学校新聞を書こう」 ～取材した内容を整理して、新聞記事を書くことができる～	5
「自分の考えを述べるために必要な図表やグラフを用いて書こう」 ～自分の考えに合った図表やグラフを見付けて、文章を書くことができる～	6
「昔話の大好きな場面を音読して紹介しよう」 ～想像した自分の思いや考えが伝わるように音読することができる～	7

#### (2) 多様な図書資料等を活用する授業の推進

- ・目的に応じた言語の能力を身に付けさせるために、国語科の教科書だけでなく、多様な図書資料等（書籍、新聞、その他のメディアからの情報）を用いることが必要である。
- ・多様な図書資料等を活用する中で、例えば必要な情報を素早く見付ける読みや、必要な部分のみを詳細に分析する読みの指導が可能となる。
- ・また、自分の考えを深めたり広げたりするためにも学校図書館等を利活用し、多様な情報に関連づけて読むことに指導に当たることが必要である。学習指導要領の言語活動例を参考にし、情報を活用して、条件に応じて自分の意見や考えを表現する活動の充実を図るとともに、考えを深めたり広げたりする「交流」の場面を単元の中に効果的に位置付ける指導が求められる。



- ・不読者をゼロに近づける取り組みが必要である。

**質問紙** 「あなたはこの1か月の間に本を何冊くらい読みましたか。」（単位は%）

	0冊	1~2	3~4	5~6	7~8	9~10	11~20	21~30	31以上	その他
県（28年度）	9.7	16.3	15.4	13.1	8.2	11.6	10.3	5.7	9.4	0.5
県（27年度）	9.1	16.4	15.5	12.2	8.3	11.5	10.3	5.7	10.6	0.3
県（26年度）	9.9	15.7	15.5	13.2	7.8	11.2	10.1	5.7	10.4	0.5

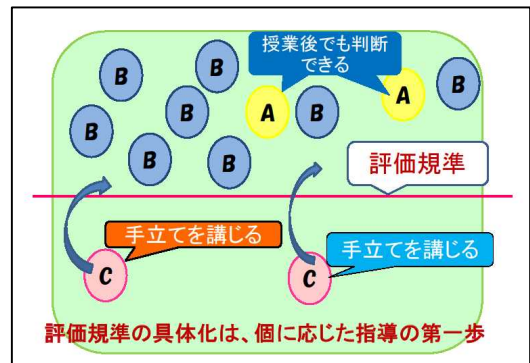
1か月に1冊も読まないいわゆる「不読者」の割合は、昨年度から増加した。まとまった量の文章を素早く読むことが苦手な児童の学力を育成する基盤として、本に慣れ親しませることが求められる。また、豊かな思考には豊かな語彙形成が不可欠であり、それを促すという視点で、読書指導を見直すことも必要である。なお、1か月に31冊以上読む児童が1割程度いることから、本の種類や内容についての指導も必要と言える。

- ・また、言語活動を取り組むために必要な事典や辞書が児童生徒の手に取りやすい場所に設置することも必要である。



**(3) 「めあて」の設定や指導にいかすことができる「より具体的な評価規準」の設定**

- ・単元の評価規準→指導過程の評価規準→本時の評価規準という道筋で、より具体的な評価規準（概ね満足できる状況）を設定することが求められる。
- ・この具体的な評価規準から本時のめあてを設定すること、また、評価規準に基づき、「C 努力を要する状況」の児童を見極め、「B 概ね満足できる状況」になるよう効果的な支援を行うことが必要である。



- ・学習の見通しをもたせ、学習の意味づけをさせることは有効であることから、「めあてー振り返り」、「課題ーまとめ」を提示したり、考えさせたりすることは大切である。

**(4) その他、国語科授業で取り組むべきこと**

- ・必要な言葉を使用し、言葉で思考を深めることが必要である。また、どのように思考するのかをきちんと理解させるためにも、例えば「要約」とはどのようなことであるのかを理解させておく必要がある。

<b>ねらい</b>	ごんの言動に着目することで、ごんの気持ちの変化に対する自分の気持ちを明確にする。
<b>めあて</b>	ごんの気持ちの変化を新聞記事にまとめよう
<b>課題</b>	ごんの気持ちの変化を理解するには何に注目すればよいか？
<b>展開</b>	気持ちの変化がわかる部分の共通点を探る。
<b>まとめ</b>	ごんの言葉や行動に着目すれば良い。
<b>振り返り</b>	自分の学びを振り返る
<b>展開① 課題を提示する場合</b>	
<b>発問等によるめあての具体化</b>	ごんの気持ちの変化がわかるところを抜き出し、どのように気持ちが変わっているのか、それについて、自分はどう思うのか伝えよう。
<b>展開</b>	気持ちの変化がわかる部分の共通点を探る。
<b>振り返り</b>	自分の学びを振り返る
<b>展開② めあてを提示する場合</b>	
<b>「めあてー振り返り」、「課題ーまとめ」という言葉のセットとなる</b>	

